

「超高速ネットワークを利用したアジア遠隔医療プロジェクト」TEMDEC(Telemedicine Development Center of Asia) AQUA (Asia-Kyushu Advanced Medical Network)活動報告：第5巻

清水，周次
九州大学病院

中島，直樹
九州大学病院

<https://doi.org/10.15017/14313>

出版情報：「超高速ネットワークを利用したアジア遠隔医療プロジェクト」 TEMDEC活動報告．5，2009-03．TEMDEC事務局
バージョン：
権利関係：

11. おわりに

2008 年度は、アジア遠隔医療開発センター（通称 TEMDEC）の開設という記念すべき年となった。遠隔医療はいつの日か、医療の主要なツールの一つに必ずなるであろう。まさにその先陣の一翼を九州大学病院は担っているのだと思う。

いつも暖かく見守って下さる田中雅夫センター長をはじめ、精力的（超人的）な活動をされている清水周次先生や岡村耕二先生、イベントの舞台監督たる寅田信博氏や九州電力（株）からの強力助っ人桑原慎也氏などの技術スタッフ、そして TEMDEC 事務や秘書の野田陽子さん、中村迪子さん、担当事務の患者サービス課の皆さん、その他九州大学の中だけでも多くの人に支えられてきた。この新しい出発を皆と共に祝いたい。また、これまでにお世話になった本当に多くの人に感謝しなければならない。その中で最初にお世話になった一人について述べさせていただく。

当初この活動は、アジアにおける医療の標準化、などと大きなことを見据えた活動ではなかった。清水周次先生が、韓国の JS Hahm 先生や HS Han 先生など、友人医師と意見交換や技術交流のために日常的にコミュニケーションを取りたいと希望して始まった活動だった。その時にお世話になったのが、当時 ISIT におられた平原正樹先生であった。平原先生には福岡天神の「イムズ」で、私が研究のポスター展示している時に、声を掛けていただいた。「何かおもしろいコンテンツがあったら日韓の海底光ケーブル（KJCN）を使ってみない？」とニコニコされながら名刺を交換していただいた。2001 年の 11 月のことであった。同じ月に私は清水先生と出会い、平原先生には岡村先生を紹介していただいた。そして我々の最初の遠隔医療イベントは KJCN を使って 2003 年 2 月に行われた。その後も APAN など平原先生には数々の助言をいただいた。

平原先生は 2008 年 7 月 29 日、ジョギング中に突然逝去された。享年 48 歳という若さであった。今や本活動は韓国のみならず、いやアジアのみならず、欧米へも広がりつつある。医療の標準化のためのツールとして広く認識され始めている。今後は実診療への応用を行うプランもあり、夢は広がっていく。平原先生には TEMDEC の活動をずっと見守っていただきたいと願っている。

平原正樹先生、有難うございました。

平成 21 年 3 月

九州大学病院 アジア遠隔医療開発センター
中島直樹